



# 化石館だより

## コラム

## コケムシってどんな虫？

サザエやアワビの貝殻に白い苔のようなものがびっしりと付着しているのを見たことはありませんか。これは、コケムシとよばれる動物の殻です。海底の岩や貝殻、サンゴ、海草などの表面に固着している様が苔のように見えることからコケムシ（苔虫）と名付けられています。虫という字が付いていますが、昆虫などとは全く違う生き物です。コケムシ(Bryozoa)は、苔虫動物門という独立した動物グループで、現生種は約8,000種、化石種を含めると20,000種を超えると言われています。日本周辺の海にも多く生息しており、1,000種を超えると考えられています。



アワビに付着したコケムシ



左写真の中央下部を拡大

コケムシは、体長1mmにも満たない個体が多数集まって、群体を形成して暮らしています。1個体はキチン質や石灰質の「虫室」の中に潜み、円形の穴から箒のような「触手冠」を伸ばし、水中の有機物片や微生物を捉えて食べています。コケムシの群体は多種多様で、名前のように貝殻の表面に苔のようにへばり付いている仲間が多いのですが、サンゴや海藻にそっくりな形をした仲間もいます。石灰質の「虫室」はコケムシの種類を見分けるための形質として重要視されています。

コケムシの仲間は4億5千万年前の古生代の初めに出現しました。そして現在まで系統を保ち進化を続けています。コケムシは「触手冠」をもつことから腕足動物や箒虫動物と同じグループに所属していましたが、現在は全く別のグループに分けられています。また、形が類似することからサンゴと間違われることもあります。これも系統的に異なっています。

コケムシの多くは浅海に生息していますが、深海にもいます。また熱帯から極域の海までの広い範囲から見つかっています。さらに淡水にも生息域を広げており、平地から高山にまで分布していることが知られています。コケムシは、種によって生息域の深度や水温、塩分濃度などが異なりますから、化石コケムシは古環境を推定する手掛かりとなります。また化石コケムシは、石灰岩や石灰質頁岩から多く発見されています。現在の海では、サンゴ礁の重要な共存者となっていますから、太古の海でも生物礁を形成することに貢献していたと考えられます。



フェネステラ的一种 (中部層)  
*Fenestella sp.*

金生山の赤坂石灰岩からは、今は消失してしまった花崗山(最上部層)から、*Eridopora sp.* *Hayasakapora sp.* *Fenestella sp.* の3種が報告されています。コケムシのように地味な化石はコレクターの目にも入りにくく、採集情報もほとんどありません。しかし、近年の化石調査により、金生山北部の市橋地域でも発見されていますし、中部層で採集した石灰岩にもよく似た化石が見つかっています。今後は、コケムシを始めカイメン、層孔虫など、これまで手をつけてこなかった化石についても調べていけたらと思います。

(文責：高木洋一)

\*\*\*\*\*

## お知らせ

前期企画展

### 「巨大二枚貝シカマイア」

～ 金生山の二枚貝化石たち ～

開催中!

金生山で発見された殻長1mを超える巨大な二枚貝シカマイアは古生代最大の二枚貝と言われていす。その模式種であるシカマイア・アカサカエンシスの復元模型と多くの実物標本、また金生山から発見された全種類の二枚貝化石を展示しています。

期 間： 5月3日(水)～9月11日(月)

入館料： 一般100円 高校生以下無料

開 館： 火曜日・祝日の翌日



問い合わせ： 大垣市金生山化石館

電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)